

4 分析結果の概要（詳細分析は9ページから24ページまで）

(1) 論理的な文章（大問〔一〕）を読む力について

山極寿一「サル化する人間社会」（毎日新聞2014年8月3日朝刊）より出題した。本文は、人間の食事とサルの食事を比較し、現代社会における人間の食事の在り方が、共感能力や連帯能力の低下につながることを指摘したものである。比較的平易な文章であり、内容も具体的であったが、設問の長い選択肢を読み解くことが難しく、昨年に比べて正答率が低くなったと考えられる。一語一語の正しい理解に基づいて文意を捉える力を育てたい。

(2) 文学的な文章（大問〔二〕）を読む力について

野村一秋の小説「鉄塔」より出題した。問題文の主人公が小学生であり、学校を舞台とした作品であるため、理解がしやすかったと考えられる。全体的に正答率が高いが、下位層では、本文の記述を基に、登場人物の行動や心情を判断することができていない。根拠となる記述に線を引かせ、表現に即して推測させるなど、丁寧な読解指導を行う必要がある。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

前半はスピーチ原稿の作成について、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。原稿作成においては、スピーチの各文が全体の中で果たす役割について、特に下位層で、理解が不十分である。構成を意識して文章を読ませる指導を行いたい。慣用句については上位層においても理解度が低く、日常生活において文章を読む機会の少ないことが推測される。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

鎌倉時代初期の説話集「宇治拾遺物語」より出題した。本文は、勇者と名高い藤原保昌が、出会った老武士の優れた能力を瞬時に見抜く話である。昨年同様、すべての大問の中で上位層と下位層の差が最も大きく、下位層では全体の文脈を捉える力に課題がある。誰の動作か、誰の言葉（思い）かということの一つ一つ押さえながら、丁寧に読解する経験を積ませたい。